

令和4年度
興南中学校
入学試験問題

前期

国語

令和4年1月8日(土)実施 45分/100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。

【一】次の各問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{かいいい}に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

問一 次の各文について、敬語の使い方が正しいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

- | | |
|-------|---------------|
| 1 先生の | |
| ア | おっしゃるとおりです。 |
| イ | 申されるとおりです。 |
| ウ | おっしゃられるとおりです。 |
| エ | 申し上げるとおりです。 |
- | | |
|----------|--------------|
| 2 資料は入口で | |
| ア | うかがってください。 |
| イ | いただいでください。 |
| ウ | 差し上げられてください。 |
| エ | お受け取りください。 |

問二 次の各文の傍線部のかなづかいに間違いがあれば、傍線部全体をひらがなで正しく改めよ。間違いがなければ、○と答えよ。

- 1 とおき^とよう^うタワーを見た。 2 テストがむずかしい。
3 今日の月はみかずきだ。

問三 次の慣用句の□に当てはまる動物の名前を次のア～カから選び、それぞれ記号で答えよ。

- 1 □をかぶる (意味…本性をかくして、人の前ではおとなしくすること。)

- 2 □の鳴くような声 (意味…力がなく、か細い声。)

- 3 □よ花よ (意味…親が子どもを大事に育てる様子。)

- ア 犬 イ 兎^{うさぎ} ウ 蚊^か エ 蝶^{ちょう} オ 猫^{ねこ} カ 虫

【二】次の〈文章Ⅰ〉・〈文章Ⅱ〉を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

〈文章Ⅰ〉

なぜ本^①を読むの？ なぜ旅に出るの？ なぜ見知らぬ人と会って話をしようとするの？ 私はワカ^aい人たちからときどききかれます。一〇〇パーセントこれだという答えにはまだ行き着かないのですが、い^②どんな本に感動するかと問われれば、自分^{こわ}を壊してくれる本、とまでは私はこれまで答えてきました。つい最近になって、自分が求めていたことはこれだったのだと気付かせてくれる文章に出会いました。それは川上弘美の短編集『なめらかで熱くて甘苦しくて』（新潮社）の書評の中で、評論家の三浦雅士がこう書いていたのです。

「人は言葉によって自分自身になる。感動とはその自分自身が分解し失われる瞬間^{しゅんかん}のことであり、感動によって生き返ったように感じるのは、その後自分自身が新たに組織し直されるからである」『毎日新聞』二〇一三年四月二十八日「今週の本棚^{ほんだな}」^③

思^うわず深く頷^{うなず}きました。自分を壊してくれるもの。自分を限りなく小さく感じさせてくれるもの。そういうものに出会うことの喜びを手にしてほしい、と私も自分の体験から学生たちにネガ^bい、口に出して言い続けてきました。^④学生たちからはしばしば疑問の声^{こゑ}があがりました。そんなことになったら、生きてゆけない、と言うのです。自分が小さいと感じることが喜びにつながるなんて。まして自分が壊されて嬉^{うれ}しいだなんて。

そうだろうか、と私は自意識^{*}でふくれあがった学生たちに話しました。絵画でも音楽でもいい。芝居^{しばい}でも映画でも一篇^{いっぺん}の詩でもいい。自然界の一コマでもいい。それらの持つ強力な力に圧倒^{あつてう}されて、ただただぼうっとなり、自分のことなんてふっとんでしまうということはないだろうか。自分が限りなく小さな存在としか感じられなくなることで、気が付いたら自分なんて消えてしまっていたと

感じることはないだろうか。そういう経験を重ねていってほしいと。

【清水真砂子 『大人になるっておもしろい?』 岩波ジュニア新書より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

* 自意識：自分自身がどうであるか、どう思われているかについての意識。

〈文章Ⅱ〉

映画を見た感想やニュースに対するコメントにしても、聞く人が刺激しげきされる面白い話ができる人と、みんなが言っているような一般的なこといっぱんしか言えない人がいます。

浅い人⑤と深い人。どちらの人の話を聞きたいか、聞くまでもありませんね。

では、その浅い・深いはどこから来ているのでしょうか。

それは一言でいえば、教養です。

教養とは、雑学や豆知識のようなものではありません。自分の中に取り込んで統合し、血肉となるような幅広い知識はばです。

カギとなるのは、物事の「本質」を捉とらえて理解することです。

バラバラとした知識がたくさんあっても、それをソウゴウ的に使いこなすことができないのでは意味がない。単なる「物知り」は「深い人」ではないのです。教養が人格や人生にまで生きている人が「深い人」です。

深い人になるには、読書ほど適したものはありません。

本を読むことで知識を深め、思考を深め、人格を深めることができます。

ろ 西郷隆盛は「深い人」です。西郷が生きた幕末・明治時代から人格者として慕われ、ものすごく人望がありました。亡くなったからも多くの人が西郷に惹かれて研究し、時代ごとに評価されてきました。現代も人気は衰えていません。

それでは、生まれたときから人格者で、「深い人」だったのかというと、そういうわけではないでしょう。西郷は多くの本を読んできました。とくに影響を受けたのは儒学者佐藤一斎の『言志四録』です。流された島でも、これを「はし、とくに心に残った101の言葉を抜き出し、常に読み返していたと言います。座右の銘としていた「敬天愛人」もそこから生まれたものです。常に本を読み、自らを培っていったのです。

【齋藤孝 『読書する人だけがたどり着ける場所』 S B新書より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

- *1 人格者…すぐれた人格（人間性・品格）をもっている人。
- *2 慕う…理想的な状態・人物などに対してそのようになりたいと願望すること。
- *3 儒学…中国古来の政治・道徳に関する学問。
- *4 言志四録…佐藤一斎が四二歳からおよそ四〇年間にわたって書き記した書物で、日々の修練（精神や技能をみがき、きたえること）や心得、さまざまな事物の道理など、筆者の学問や体験からうまれた教訓が書かれている。
- *5 座右の銘…いつも身辺において日常のいましめとする言葉。
- *6 敬天愛人…天をうやまい、人を愛すること。

問一 二重傍線部 a↘c のカタカナを漢字に直して答えよ。

a ワカい人たちからときどききかれます b 自分の体験から学生たちにネガい c それをソウゴウ的に使いこなす

問二 傍線部①「本を読む」とあるが、〈文章Ⅱ〉では本を読むことでどのようなことができるようになると述べているか。二十字で特定し、はじめとおわりの三字を抜き出して答えよ。

問三 傍線部②「自分を壊してくれる本」とは、どのようなものか。最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

ア 自分の幼い考え方に気付かせ、成長を促^{うなが}してくれるもの。

イ 自己理解を促し、人生に対する考え方を変えてくれるもの。

ウ 自分の間違いに気付かせ、正しい道に導いてくれるもの。

エ 今までの自分を分解し、新しい自分へと変えてくれるもの。

問四 傍線部③「思わず」の本文中における意味として最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

ア 無意識に イ すぐさま ウ おどろきをかくせずに エ しばらくたって

問五 傍線部④「学生たちからはしばしば疑問の声があがりました」とあるが、筆者はその理由は何だと考えているか。最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えよ。

ア 自分の欠点ばかりに目を向けると生きてゆくことが苦痛になるため、精神的に弱い学生にはたえられないから。

イ 成長段階にある学生は、新しい考え方に出会い自分が変化していくのは当然だと考えるから。

ウ 様々な経験が不足している学生は、自分に自信を与えてくれるものこそ優先的に経験すべきだと考えるから。

エ 今の自分を守ろうとする意識が強い学生は、自身をゆるがすものに対して抵抗を感じるから。

問六 い・ろ に当てはまる最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。ただし、同じ記号を用いてはならない。

ア なぜなら イ つまり ウ もしくは エ でも オ たとえば

問七 は に入る言葉として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 音読 イ 速読 ウ 黙読もく エ 熟読

問八 〈文章Ⅰ〉と〈文章Ⅱ〉の関係についての説明として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 読書や芸術などの大きな力に圧倒される経験を通して新たに自分自身を成長させてほしいとねがう〈文章Ⅰ〉に加え、〈文章Ⅱ〉は過去の偉人たちの本を読むことでさらに成長できると指摘してきしている。

イ 〈文章Ⅰ〉は現代の日本の学生たちは読書をしなくなり自分を壊してくれるものに出会わなくなったとなげく一方で、〈文章Ⅱ〉は過去の日本には読書をする生活が学生にも根付いていたことを指摘している。

ウ 自然に触れ合いながら読書に親しむ姿勢を作っていくことの重要性を述べる〈文章Ⅰ〉に対し、〈文章Ⅱ〉は読書生活を充実させることで自然に触れ合う必要性がなくなると反論している。

エ 〈文章Ⅰ〉は読書を含め様々な自分を壊してくれるものに出会う経験を積んで新しい自分になってほしいと述べ、〈文章Ⅱ〉は人格を形成する上で重要だという読書の役割が補強されている。

問九 本文の表現や構成に関する説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 〈文章Ⅰ〉の冒頭では「？」がつく文を連続して重ねることで、読者に疑問を投げかけ主体的に文章を読む手助けをしている。

イ 〈文章Ⅰ〉では「人は言葉にくからである」と三浦雅士の言葉を引用することで、感動することは自分を壊すことだという筆者の考えをより明確に示すことができている。

ウ 〈文章Ⅱ〉は「どちらの話を知りたいか、聞くまでもありませんね」と読者に念押しをすることで、これから話すことが話題とする価値もないことを強調している。

エ 〈文章Ⅱ〉は西郷隆盛や佐藤一斎の読書に対する考え方を引用することで、人々の読書に対する考え方が時代ごとに全く異なることを表している。

問十 〈文章Ⅰ〉〈文章Ⅱ〉を読んだ優さんは読書についてもっと知りたいと思いい調べていくと、小学生の読書に関するある調査が見つかった。その調査結果の一部抜粋が〈文章Ⅲ〉と〈資料一〉である。これらを読み以下の問いに答えよ。

〈文章Ⅲ〉

読書履歴と実力テストのデータからは、読書の量（冊数）が国語の「知識問題」だけでなく、「読解問題」や「挑戦問題」などの思考力を問う問題の偏差値にもプラスの効果をもつという結果が得られました。読書は「知識」と「思考力」の両面で、その向上や維持に効果を持っている可能性が示唆されました。^{*2}

つづけて、読書の量（冊数）で分けたグループごとに、本の読み方や効果実感を検討しました。その結果、本に親しんでいる子どもは、単にたくさんの本を読むというだけでなく、読み方を工夫したり、自分に役に立つことを理解したりしていることがわかりました。そのことが実力テストの偏差値の変化に反映している可能性があります。

最後に、読書に関する経験をたずねた回答からは、読書が学習面にとどまらず、にしていることが明らかになりました。^{*3} コロナ禍で体験を広げることが難しく、^{*4} 情緒面での不安定さも抱えやすい状況にあつて、読書は子どもの成長により重要な役割を果たしていくものと思われまます。

【〈文章Ⅲ〉・〈資料一〉ともに 株式会社ベネッセホールディングス ブランド・広報部 「小学生の読書に関する実態調査・研究

―読書は『知識』と『思考力』の両方を伸ばす―コロナ禍における子どもたちの心の安定にも効果」より一部抜粋 2021.3.15】

※問題作成の都合上、一部改変

【語注】

- *1 偏差値：個人の得点が全体の中でどの程度のレベルにあるかを表す数値。
- *2 示唆：それとなく教え示すこと。ほのめかすこと。
- *3 コロナ禍：新型コロナウイルスの感染拡大が招いた災難や危機的状况。
- *4 情緒：喜怒哀楽を生む心の動き。

研究目的:子どもにとっての「読書」の意味や影響を明らかにする

これまでの研究成果(主な知見)

●2018年度研究

- ① 読書は**学力が低い子ども**たちに大きなプラス効果がみられた
- ② 読書量の効果は「**算数**」で大きい

●2019年度研究

- ① 幅広い読書が「**思考力**」や「**創造性**」にプラスの効果がある
- ② 読むジャンルの幅の広さが「**社会科**」の成績の向上に影響している

▶ 詳しくは[こちら](#)



2020年度(今回)の研究

●テーマ

- ① 読書は「**国語**」の**力=知識や思考力**の向上にどのような影響があるか
- ② **コロナ禍**における読書の効果とはどのようなものか

●研究の方法と対象

- ① 進研ゼミの電子書籍サービス「**まなびライブラリー**」と「**実力テスト**」の**1年分の履歴**の解析(小学6年生・約1万人分)
- ② 「まなびライブラリー」利用者に対する**アンケート**の分析(同・約2千人分)

今回わかったこと



「読書をたくさんした子ども」の偏差値変化(基準:読書をしなかった子ども)

※月平均3冊より多く読んだ子

※期間中に1冊も読んでいない子

学力の低い子ども

学力の高い子ども

国語の問題を3タイプに分類

知識問題

+3.2ポイント

+1.7ポイント

読解問題

+1.7ポイント

+1.4ポイント

挑戦問題

+1.9ポイント

+2.0ポイント

ポイント①



読書をたくさんした子どもは、「読解問題」や「挑戦問題」などの**思考力**を問う問題の**偏差値も伸ばしている**

※テスト問題の例は文末を参照

※学力は「進研ゼミ」の実力テスト(5年生8月)の結果をもとに分類



「読書をたくさんした子ども」はどうして知識や思考力が高まるの?

本の読み方の工夫

※「とてもあてはまる」の比率(%)

たくさんした子ども

しなかった子ども

気になったところを読み返す

69.0% > 58.3%

登場人物の気持ちになりながら読む

54.7% > 41.9%

ポイント②



読書をたくさんした子どもは、**様々な読み方**を工夫している



他にはどんな効果があるの?

読書の心理面への効果

※「とてもあてはまる」の比率(%)

たくさんした子ども

しなかった子ども

時間がたつのを忘れるくらい夢中になる

76.6% > 56.9%

心が落ち着く

73.7% > 56.7%

ポイント③



読書をたくさんした子どもは、**心理面への効果も実感**

1 〈資料一〉から分かることとして**適当でないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 読書をしなかった子どもと読書をたくさんした子どもの「とてもあてはまる」の比率の差がもつとも大きいのは「時間がたつのを忘れるくらい夢中になる」という項目である。

イ 読書をしなかった子どもと読書をたくさんした子どもの「とてもあてはまる」の比率の差がもつとも小さいのは「登場人物の気持ちになりながら読む」という項目である。

ウ 読書をたくさんした子どものうち、学力の低い子どもと学力の高い子どもの偏差値の変化の差がもつとも大きいのは「知識問題」である。

エ 読書をたくさんした子どものうち、学力の低い子どもと学力の高い子どもの偏差値の変化の差がもつとも小さいのは「挑戦問題」である。

2 〈資料一〉を見て、〈文章Ⅲ〉にに入る内容として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 学力が大きく向上したり、読むジャンルの幅が広がったり

イ 学力が大きく向上したり、精神面での成長がみられたり

ウ 夢中になる体験になったり、想像力を高めることにつながったり

エ 夢中になる体験になったり、心理面での安定につながったり

【三】次の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{ていねい}に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

主人公の「ぼく」は勉強も運動も苦手^{にがて}で、友だちと遊んだこともなかった。しかし、五年生に進級し、クラスメイトの押野^{おしの}のおかげで、少しずつ学校生活を楽しみ始めていた。飼育委員になった「ぼく」は、教室で飼う生き物を決める学級会のため、事前に委員で相談しておくように担任の椎野^{しいの}先生から言われていた。しかし、誰も相談しようという気配がなく、「ぼく」はあせりながらも言い出せずにいた。飼育委員は四人いて、「ぼく」以外は亀山さんという女子が一人と、男子が二人である。

なんとなく彼らの視線を感じる。でも、こっちから声をかけることができない。亀山さんにも何度も視線を送っているけど、絶対気付いているはずなのに無視している。どうしよう。学級会は五時間目だから、それまでになんとかしなくちゃいけない。

頭の中で、もやもやと考えているうちに時間は 過ぎてゆき、あつという間に昼休みになってしまった。

「ねえ、ちょっと!」

突然、亀山さんに声をかけられた。

「亀に決めたから!」

「……え、亀? 亀だけ?」

「そう。亀にだっているんな種類がいるんだから、いいでしょ!」

そんな……、と思ったけど、反論のしようがなかった。

「あ、あとの二人は?」

「よくわかんない。^{*2} えだいちから聞いておいてよ。みんなちつとも決めないんだから。とりあえず亀で決まりだから！」

時間は刻一刻と迫^{せま}っている。振り返^ふって二人を見ると、ぼくのことを

「亀山さんが、亀って言ってるけど、それで決まりでいいのかな」

二人は顔を見合わせるだけで、なにも答えない。

「どう？」

何度目かの同じ質問に、

「家で熱帯魚とかいろいろ飼ってるから、べつにそんななんでもいい」

と片方が言った。そして二人で目配せしあって、ふんつと鼻で笑^①った。

「べつになんでもいい」

もう片方も、同じような調子でそう言った。正直ぼくはむかつとした。これじゃあ、亀山さんのほうがよっぽどました。

「わかったよ」

ぼくは二人に背を向けた。眉間^{みけん}や耳のあたりが熱くなつて、こめかみがじんじんした。いかげんすぎるじゃないかと思った。二

人でにやにや笑ったりしていやな感じだ。怒るとい感情を、ぼくはこの日初めて経験したのかもしれない。

五時間目はすぐにやってきて、学級会がはじまった。そして、椎野先生が、

「まず飼育委員の人たちが決めたものを発表してください」と言った。

ちらつとあの二人を見ると、下を向いている。ぼくはまたむかつときたけど、深呼吸をしたらだいぶ収まった。亀山さんに目をや

ると、すましたままだ。だれも発表する気がないらしい。

「ほら、飼育委員！」

椎野先生にパンツと手を叩かれて、ぼくは思わず立ち上がった。立った自分にびっくりした。クラスメイトのみんなもびっくりしていたにちがいない。五年生になって、押野にからかわれたりして、多少はみんなから注目を浴びることもあったけど、それは本当に時々って感じで、ふだんのぼくは相変わらざるのさえない男子だったから。

「はい、じゃあ、枝田くん発表してください」

椎野先生はいつもの笑顔にさらにうれしさが加わったような顔をしていた。やさしい親戚のおばさんみたいで、ぼくはちよつとだけ心強く思った。

「ぼくたち飼育委員が決めた、クラスで飼う生き物の候補を発表します」

ぼくはみんなのほうを向いて、ひと呼吸したあと大きな声で言った。

「ひとつめは亀です。亀といってもいろいろな種類の亀がいますが、飼いやすいのはミドリガメやゼニガメだと思います。小さくてとてもかわいいです」

言葉は「は」と出てきた。

「それと、ぼくの意見ですが、グッピーやネオオンテトラなどの熱帯魚を飼いたいと思います。赤ちゃんを産ませて育てたいからです。あと淡水魚だったら、あやめ川でつれる鮒とかハヤもいいと思います」

教室がしんとまった。自分でも驚いた。こんなふうに分の意見を、頭の中で思っていたとおりに、みんなの前でしゃべることができるなんて。ぼくは、大きく息を吐いてからしずかに席に座った。母さんが買ってくれた水辺の生き物図鑑と熱帯魚図鑑はぼくの愛読書だ。

「おいおい、なんだよ。すげーな、今日のえだいち」

押野がおどけて沈黙を破ったと同時に、空気がはじけてみんなが笑った。③ 椎野先生は、まっすぐにぼくを見ていた。亀山さんのほ

うを見たら、ピースで返してくれた。

学級会では、その後いろいろな意見が出たけど、五年二組で飼育するのは、結局グッピーとなった。ぼくはうれしかったけど、亀山さんには申し訳ないような気がした。

「ごめんね。亀飼えなくて」

あとで亀山さんに謝ったら、亀山さんは「気にしないで」と言ってくれた。

「私、グッピーも好きだから。いっぱい増やしたいよね」と。ぼくは大きくうなずいた。

ぼくたち飼育委員は、椎野先生と一緒に近所の熱帯魚屋さんに行つて、グッピーをつがいで六匹むっぴき買った。本物のグッピーは、図鑑で見るとよりもっともときれいで、思ったよりも小さかった。

水槽すいそうをきれいに洗つて、酸素ポンプを取りつけた。学級会のときはちよつとむかついたけど、家で熱帯魚を飼っているという二人だけあつて、手際よく準備をしてくれた。ぼくはお礼を言った。二人も「ありがとう」と言ってくれた。^④さつき怒つていた自分はずかしくなつた。

四人で、これからの飼育日誌のつけ方や、エサのやり方を相談した。三丁目の空き地で野球をする連中とはまたちがつた感覚で、友達にはいろんな種類があるんだなあ、と漠然ぼくと思つた。

【 椰月美智子『しずかな日々』(講談社文庫)より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

*1 押野：「ぼく」の初めての友達。五年生の始業式の日、「ぼく」を野球に誘つた。学級委員を務める、クラスの人気者。

*2 えだいち：「ぼく」のあだ名。フルネームは枝田 光輝。

問一 い は に当てはまる言葉として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

ア じいっと イ すらすら ウ そわそわ エ どんどん オ ぼうっと

問二 傍線部①「鼻で笑った」の本文中における意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア うれしくてたまらなかった イ がまんができなかった ウ 相手を小ばかにした エ 本音をかくした

問三 傍線部②「正直ぼくはむかつとした」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「ぼく」の意見を無視し亀山さんの意見に賛成したから。 イ 二人が自分の意見すら言わず投げやりな態度だったから。

ウ 実は二人だけで事前に話し合っていたことが分かったから。 エ 無言でにやにや笑う二人の様子を不気味だと感じたから。

問四 傍線部③「椎野先生は、まっすぐにぼくを見ていた」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号

で答えよ。

ア 積極的に行動できずにいた「ぼく」が飼育委員としての仕事を果たそうとした姿に、「ぼく」の成長を感じたから。

イ クラスメイトの前で発表できるほど成長した「ぼく」の姿に、自身のこれまでの指導が正しかったことを確信したから。

ウ 普段とは異なる様子の「ぼく」の存在を、戸惑いながらも受け入れたクラスメイトの姿に子ども達の成長を感じたから。

エ 「ぼく」が立ち上がったのは学級委員の押野の支えのおかげだということに気付き、二人の友情に感動したから。

問五 傍線部④「さつき怒っていた自分はずかしくなった」とあるが、この時の「ぼく」の心情の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 二人にばかりにされているような気がして腹を立てていたが、自分の考えを受け入れてくれたことでもっと素直に話していればと後悔している。

イ 二人にばかりにされているような気がして腹を立てていたが、それは誤解ごかいだったことが判明し、むしろ自分の態度が悪かったのだと反省している。

ウ はじめは非協力的だった二人に腹を立てていたが、二人の素早い作業を見て自分の意見は間違っていたと気づき、後悔している。

エ はじめは非協力的だった二人に腹を立てていたが、二人にも良いところがあるのに、一面だけを見て腹を立てていたことを反省している。

問六 本文の内容と表現の特徴とくちょうの説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「ぼくは二人に背を向けた。」という表現には、飼育委員の男子二人に言い負かされた自分への怒りが込められており、「ぼく」の未熟な部分を暗に示している。

イ 「どうしよう。学級会は五時間目だから、それまでになんとかしなくちゃいけない」など、地の文でも「ぼく」の心情を示しており、読者が「ぼく」の心情に共感しながら読むことができる。

ウ 「教室がしんとなった。」「空気がはじけてみんなが笑った。」と、クラスメイトの反応を《静》と《動》で表現し、「ぼく」の発表が否定されたことを強調している。

エ 「本物のグッピーは、凶鑑で見るよりもっともときれいで」という表現には、小さい生き物が持つ命の輝きと少年特有の純粹さを相互に高め合う効果がある。

問七 この文章に描かれている「ぼく」の人物像について児童たちが意見を述べ合った。文章の内容を正しくふまえていない意見を、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 児童A：飼育委員として意見を発表した「ぼく」だけど、はじめはなかなか行動できなかったことをふまえると、きっと大人しい子だったんだろうね。

イ 児童B：それに、亀山さんに言われて他の二人に話しかけたり、椎野先生に促されて立ち上がったたり、遠慮がちなでひかえめな性格だとも言えるね。

ウ 児童C：でも、しっかり発表できていたよね。「ぼく」が会のなりゆきを予測して懸命に勉強してきたことが伝わったよ。
努力家の一面も持っているんだね。

エ 児童D：「ぼく」が亀山さんの提案を真っ先に発表していたことや、後に提案と異なる結果になってしまったことを謝っていた点が印象的かな。「ぼく」の思いやりが感じられたよ。

問八 本文の主題について述べた文として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 気弱な自分から一歩踏み出したことで人間関係の輪を広げていく、少年の成長。

イ 孤独な少年が、自分の信念を貫くこと^{つら}で周囲の考えを変えていく、痛快な大逆転劇。

ウ 消極的な自分を乗り越えて仲間と共に異なる価値観と戦っていく、少年たちの勇気と熱い友情。

エ 好意を抱く人の為にひたむきに努力する、少年ならではのあわい恋心。

※問題は以上。